

# 令和7年度学校自己評価(アンケートの集計と考察)

長野県稲荷山養護学校

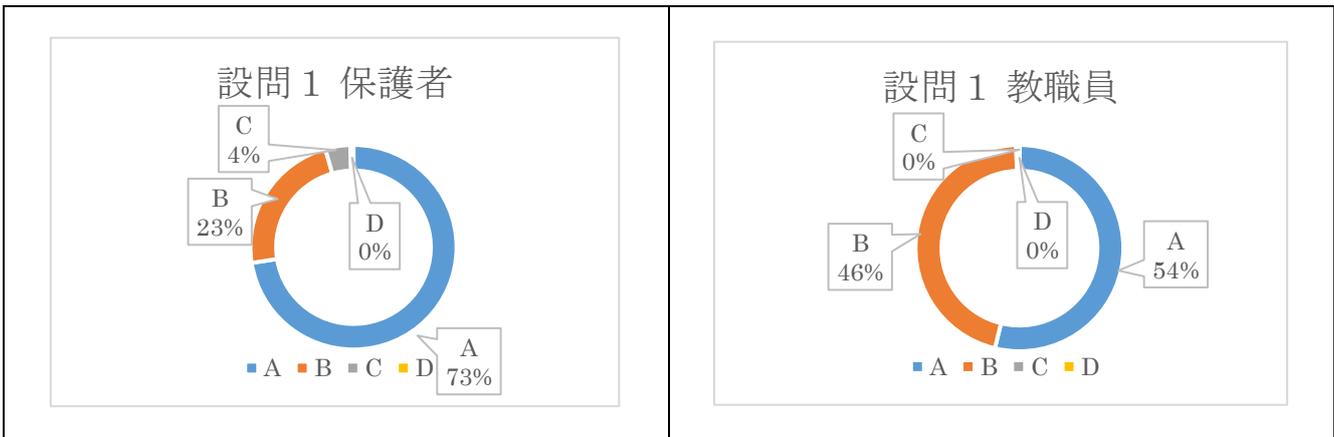
## 1 回収率 (※保護者人数は在籍児童生徒人数)

|     | 小学部 |    |    | 中学部 |    |    | 高等部 |    |    | 分教室 |    |    | 寄宿舎 |    |    | 合計  |     |    |
|-----|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|-----|----|
|     | 人数  | 提出 | %  | 人数  | 提出  | %  |
| 保護者 | 105 | 71 | 68 | 75  | 46 | 61 | 115 | 75 | 65 | 24  | 13 | 54 | 20  | 12 | 60 | 319 | 205 | 64 |
| 教職員 |     |    |    |     |    |    |     |    |    |     |    |    |     |    |    | 208 | 197 | 95 |

評価基準 A: と思う B: だいたいと思う C: あまりそう思わない D: そう思わない

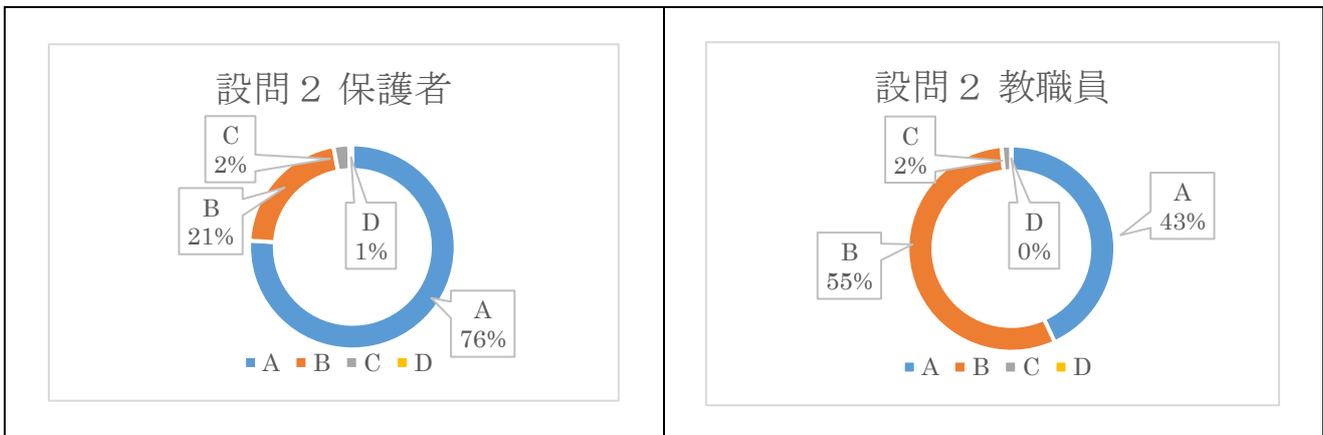
## 2 項目ごとの保護者・教職員間比較 (※ 設問は保護者アンケートの内容)

設問1 職員は、生活年齢や障がい特性に配慮し、特別支援教育の専門知識を活かした教育を行おうと努力していると思いますか。



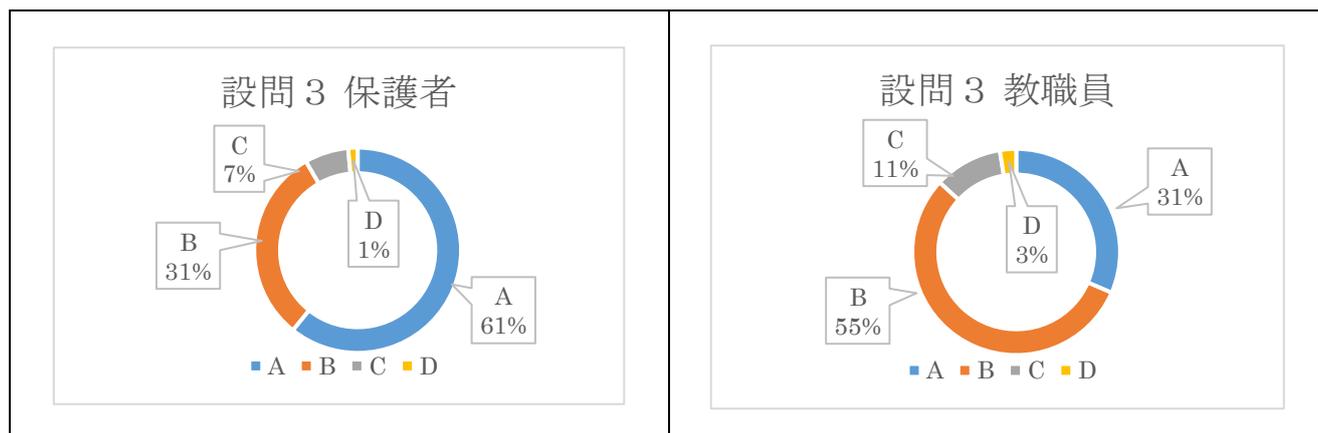
保護者・教職員ともにA・B評価の合計が95%を超え、引き続き高い評価を得ています。保護者からは「障がい特性だけでなく学齢に応じた教材選定を意識してほしい」「医療的ケアの理解をふかめてほしい」「担任が変わった時に引き継ぎをしっかりとしてほしい」などの意見があり、専門性のさらなる向上と情報共有の強化が求められています。県教育委員会が進めている外部専門家活用事業を活用した校内研修に加え、校外研修にも積極的に参加し、特別支援教育に関わる研修を充実し、保護者との連携を深めることで、一人ひとりに応じた指導・支援の質を高めていきます。

設問2 学校は、個別の指導計画を作成し、それに基づいて適切な指導、支援をしていると思いますか。



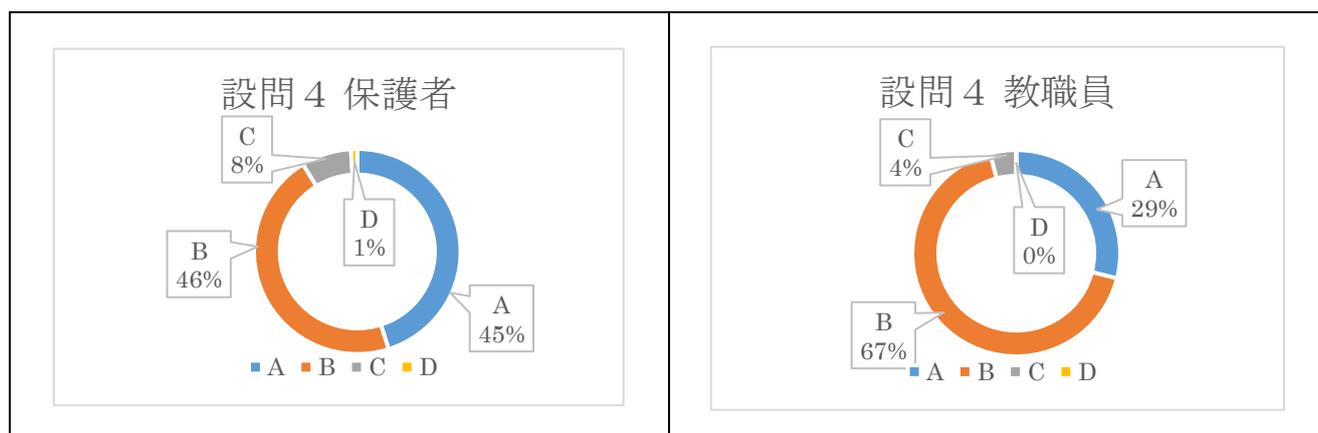
保護者・教職員ともにA・B評価の合計が97%以上と、個別の指導計画の作成・活用について高い評価を得ています。保護者からは「参観機会を増やしてほしい」「学齢に応じた教材選定をしてほしい」などの意見があり、計画の内容をより分かりやすく伝える工夫や、保護者との情報共有の強化が求められています。今年度は校務支援システムを活用した記載内容の改善や、支援会議での具体的な支援説明を心掛けており、今後も保護者との共通理解を深める取り組みを継続します。

設問3 学校は、前年度の学級や学部からの引き継ぎが適切になされ、連携した指導、支援を行っていると思いますか。



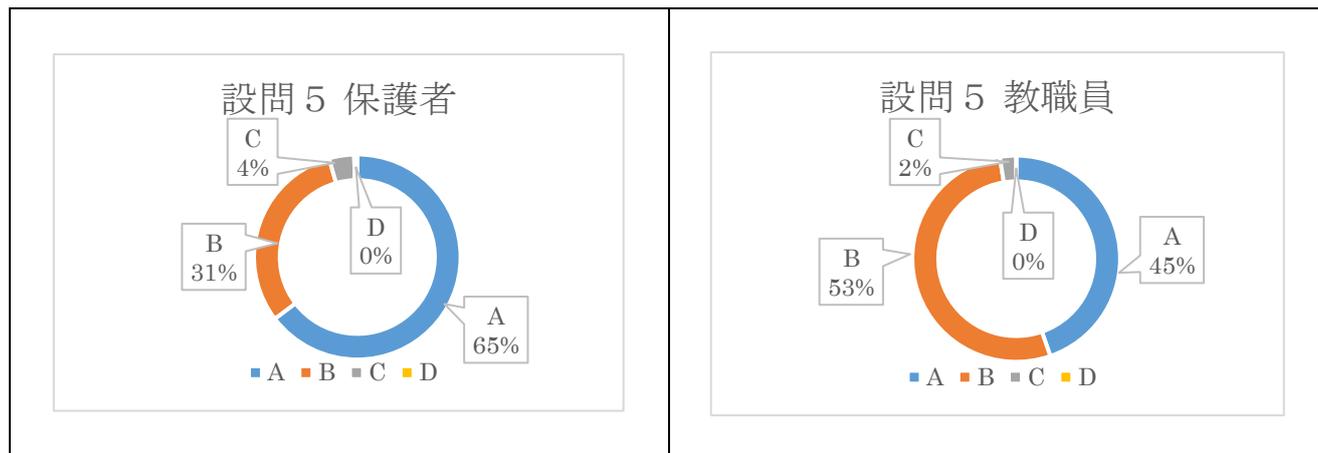
保護者・教職員ともに9割以上が肯定的評価ですが、まだ、引き継ぎ不足であるという声もありました。今年度は、移行支援会議等で児童生徒の障がいによる特性や医療的ケア児の安全面等を再確認し、校務支援システムで個別の指導計画を学級や学部からの引継ぎ時にも共有しましたが、今後も、年度当初だけでなく、継続的な引き継ぎを行い、保護者・職員双方が安心できる引き継ぎ体制を強化します。

設問4 学校は、家庭・地域・関係機関（市町村の福祉関係機関、支援センター、ハローワーク、医療機関、児童相談所等）と有意義な連携を行っていると思いますか。



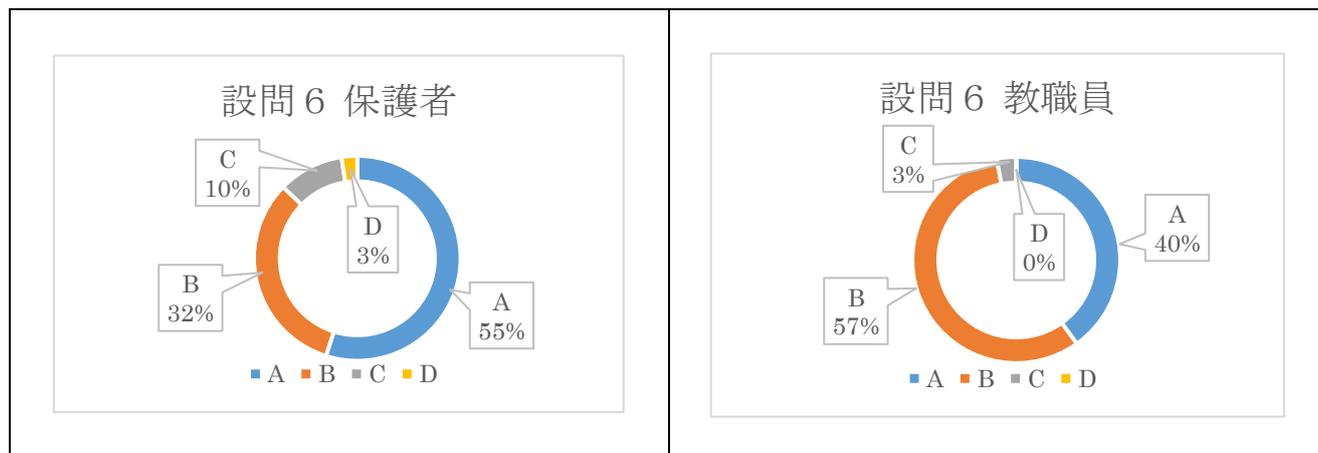
保護者・教職員ともにA・B評価が90%以上と家庭・地域・関係機関との連携は概ね良好であると評価を得ています。今後も福祉機関や医療機関等との連携を強化し、進路支援においては、ハローワークや障害者就業・生活支援センター、障がい者総合支援センター等とのネットワークを活かした支援を継続します。また、地域や関係機関からの情報についても、保護者への案内を充実させていきます。

設問5 児童生徒は、学校生活を通してその子なりに基本的な生活習慣（あいさつ、身辺自立、性に関すること等）が育っていると思いますか。



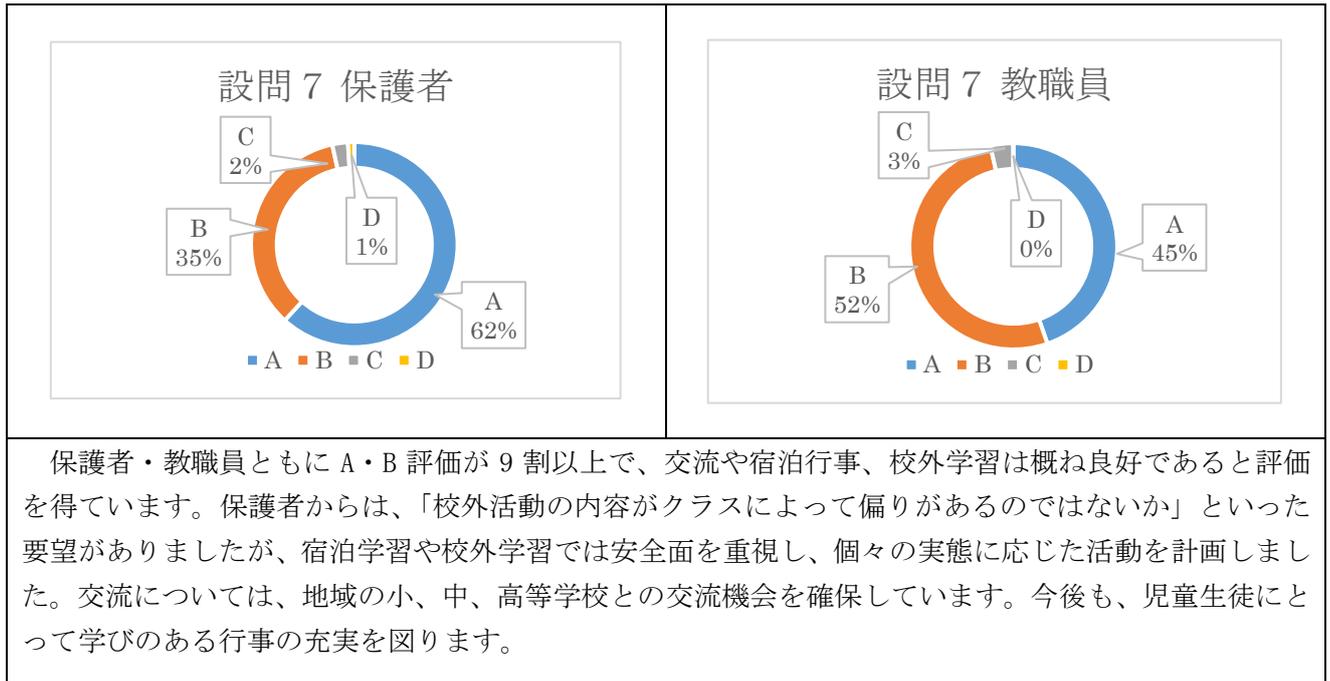
保護者・教職員ともにA・B評価が95%以上で、基本的な生活習慣の育成については、概ね高評価をいただいています。学級ごと、朝の会や給食指導等、学校生活全体を通して、具体的な場面で個に応じて支援するとともに、性教育に関わる学習も行っています。今後も、家庭と連携しながら児童生徒の実態に応じた生活習慣の習得を進めます。

設問6 学校や家庭における悩みなどを気軽に相談できる体制が整っていると思いますか。

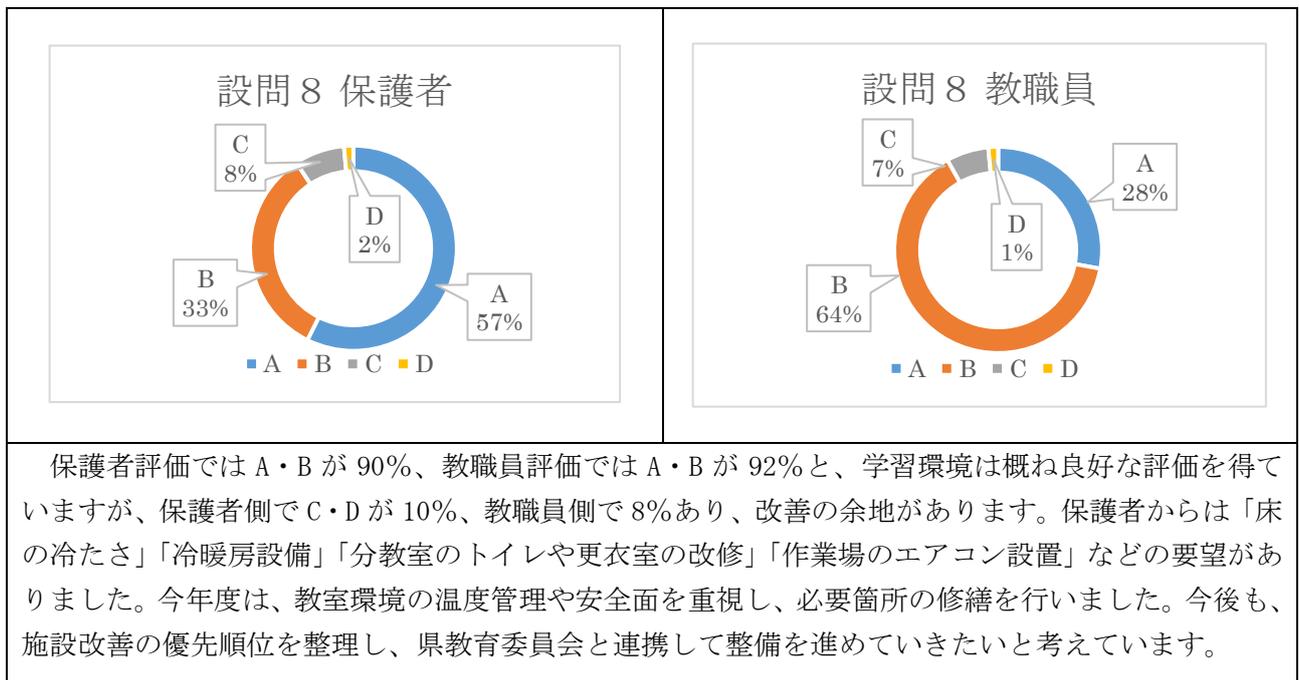


保護者評価ではA・Bが87%、教職員評価では97%と相談体制は概ね良好であると評価を受けていますが、保護者側でC・Dが13%と改善の余地があります。保護者からは「相談後の対応や見通しを示してほしい」という要望がありました。連絡帳や電話、支援会議等で課題の共有を行っています。今後も、相談後のフィードバックを充実させ、自立活動担当職員や進路指導の職員、養護教諭等との連携を深めながら、安心して相談できる環境づくりを進めていきます。

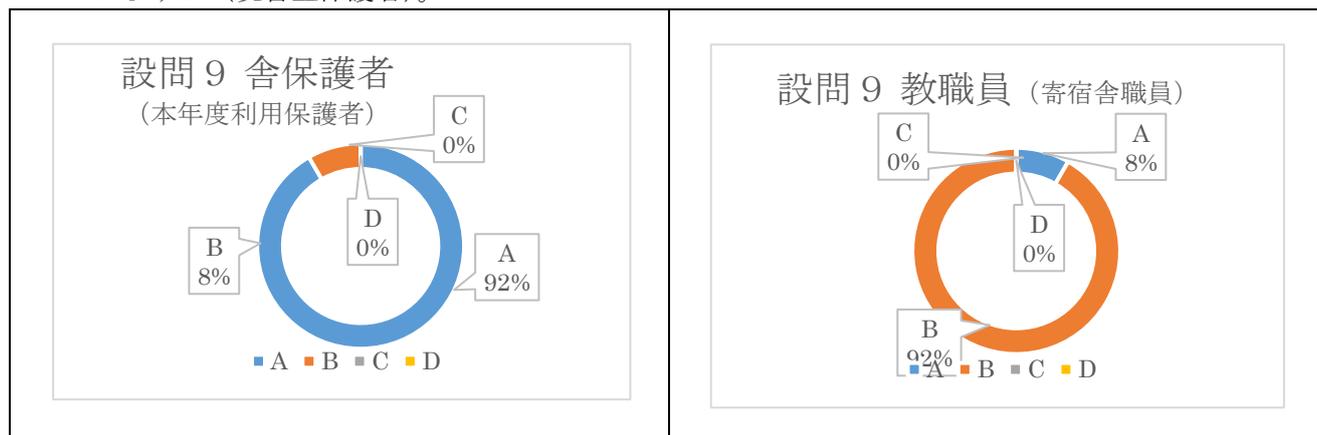
設問7 交流や宿泊行事、校外学習は、児童生徒の実施にあったものになっていると思いますか。



設問8 学習環境（学校の施設・設備、教室環境など）は、児童生徒にとって生活しやすいものになっていると思いますか。

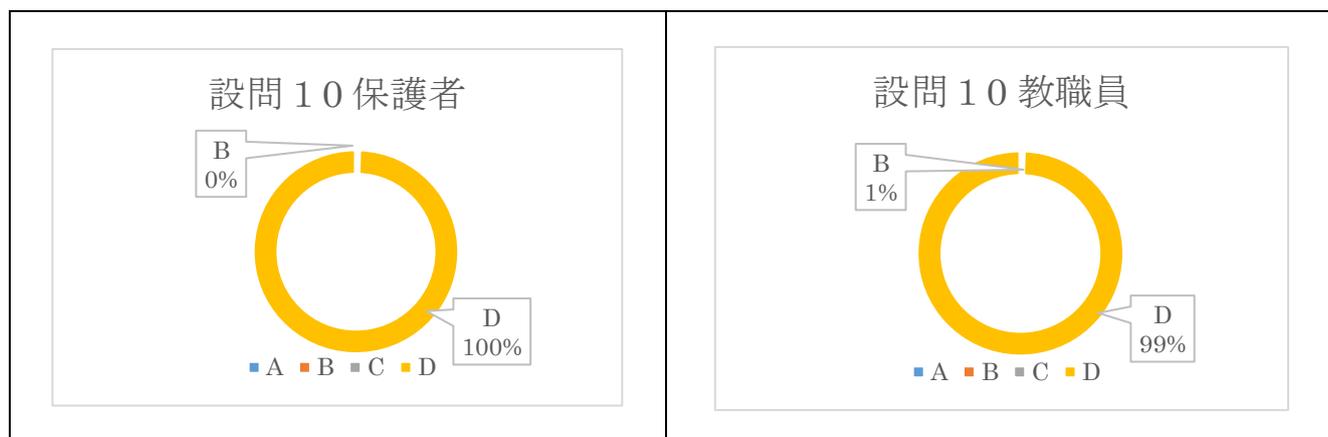


設問9 寄宿舎では、舎生にとって安心安全な環境を整えたり、温かい支援が行われたりしていると思いますか（現舎生保護者）。



保護者・教職員ともにA・B評価が100%で、寄宿舎の環境や支援は概ね良好であると評価を得ています。保護者からは「寄宿舎での生活を楽しみにしている」「身辺自立や精神的成長を感じる」との声がありました。今年度も安全面を重視した生活支援を継続し、一人一人に応じた対応を心掛けました。さらに、寄宿舎職員間で支援方針を共有し、保護者との情報交換を密にすることで、安心感のある生活環境を維持しています。今後も、舎生が安心して過ごせる寄宿舎づくりを進めます。

設問10 今年度、あなたのお子さんが体罰をされたということを見たり聞いたりしたことはありますか。



保護者・教職員ともに「体罰を見聞きしたことがない」がほぼ全員で、体罰は発生していないと評価されています。これは、学校全体で体罰防止の方針を徹底し、日常的な指導で児童生徒の尊厳を守る取り組みを継続している成果と考えられます。今年度も、職員研修で体罰防止や人権尊重の意識を強化し、児童生徒への相談体制を整備してきました。今後も、不適切な言動を防ぐため、教職員自身が振り返る場を設けたり、互いの言動を指摘し合える職場づくりに努めたりしていきます。

### 3 寄宿舍アンケート（寄宿舍を利用している保護者アンケート）

設問1 寄宿舍の職員は、生活年齢や障がい特性に配慮し、専門知識を活かした指導を行おうと努力していると思いますか。

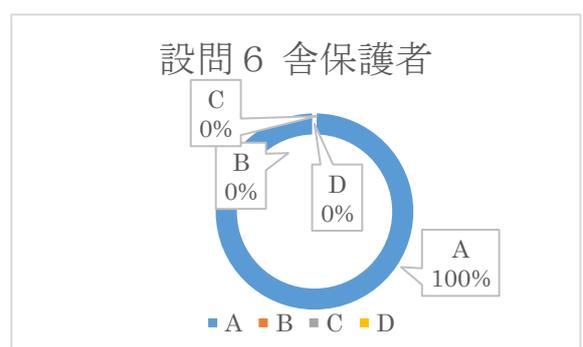
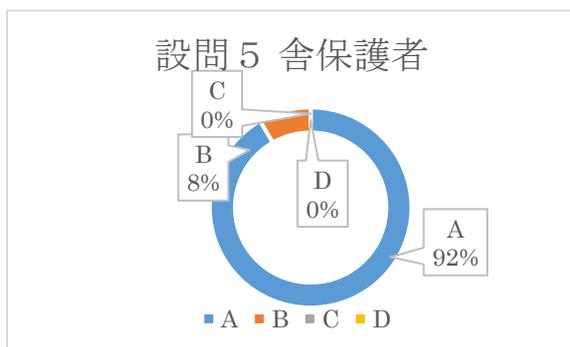
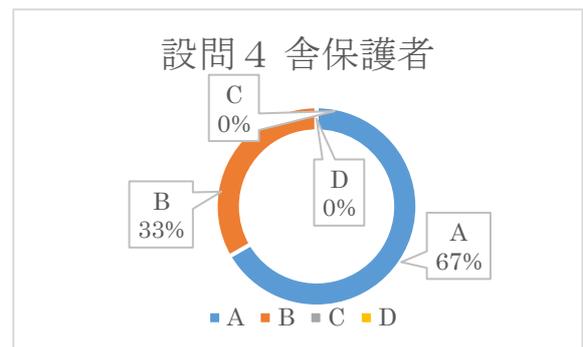
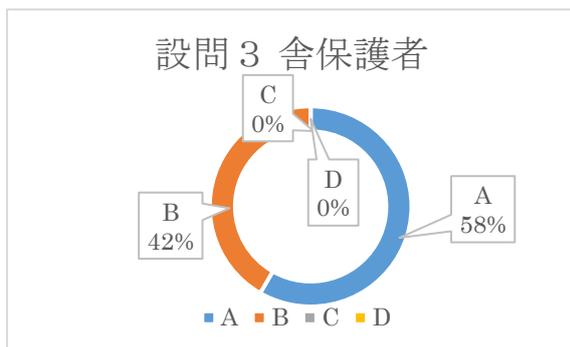
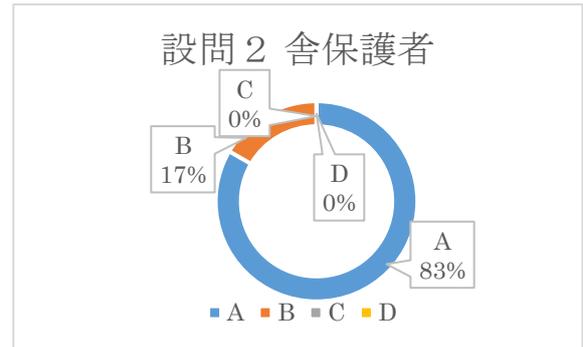
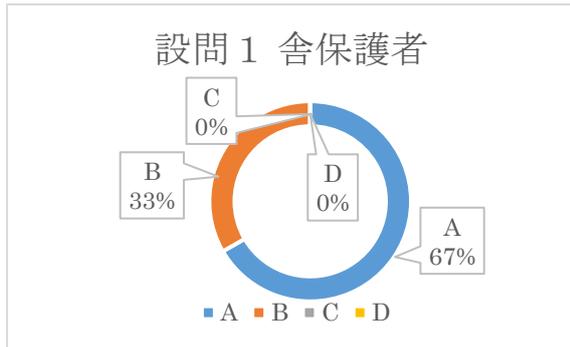
設問2 寄宿舍では個別の指導計画を作成し、それに基づいて適切な指導、支援をしていると思いますか。

設問3 日々の連絡や個別懇談、参観等を通じて、支援の共通理解がもてていると思いますか。

設問4 寄宿舍での生活を通して、その子なりに基本的な生活習慣やマナー（身辺自立、あいさつ、性に関すること等）が育っていると思いますか。

設問5 寄宿舍の施設・設備・居室等は、児童生徒にとって安心安全で生活しやすいものになっていると思いますか。

設問6 寄宿舍では、プライバシーに配慮した同性介助の徹底がなされていると思いますか。



#### 【考察】

寄宿舍アンケートでは、すべての設問でA・B評価が100%と非常に良好な評価を得ています。特に、個別の指導計画の活用（設問2）や日々の情報共有（設問3）で評価が大きく向上しており、校務支援システム導入後の記述改善や情報共有の強化が効果的だったと考えられます。今年度は、保護者との連絡を密にし、支援方針の共通理解を深める取り組みを継続しました。今後も、舎生の安心・安全な生活環境を維持しつつ、生徒一人一人に応じた柔軟な支援を充実させていきます。